

平成 20 年漁期 イカナゴ新仔（シンコ）情報

平成 20 年 2 月 18 日
香川県水産試験場

1 気象・海象

(1) 水温（図 1）

今期の屋島湾（備讃瀬戸）の水温は，11 月に入り中旬までは平年値より 1 程度高く推移した。11 月下旬から 12 月中旬まで平年値から平年値より 0.7 程度高く推移した。年末年始の寒波で低下し平年値を 0.6 程度下回った。その後上昇し，平年値より 0.6 前後高く推移している。気象予報によれば四国の今後 1 ヶ月の気温は平年並みかやや低く推移すると予測されており，今後の水温は平年値に近づき推移すると思われる。

なお，イカナゴの産卵盛期の水温とされる 14～12 になったのは，平成 19 年 12 月 14 日～平成 19 年 12 月 30 日で，平年（12 月 12 日頃～12 月 25 日頃）と比べ 2 日遅く，3 日長かった。また，水温 13 を割り込んだのは 12 月 19 日で平年と同日だった。

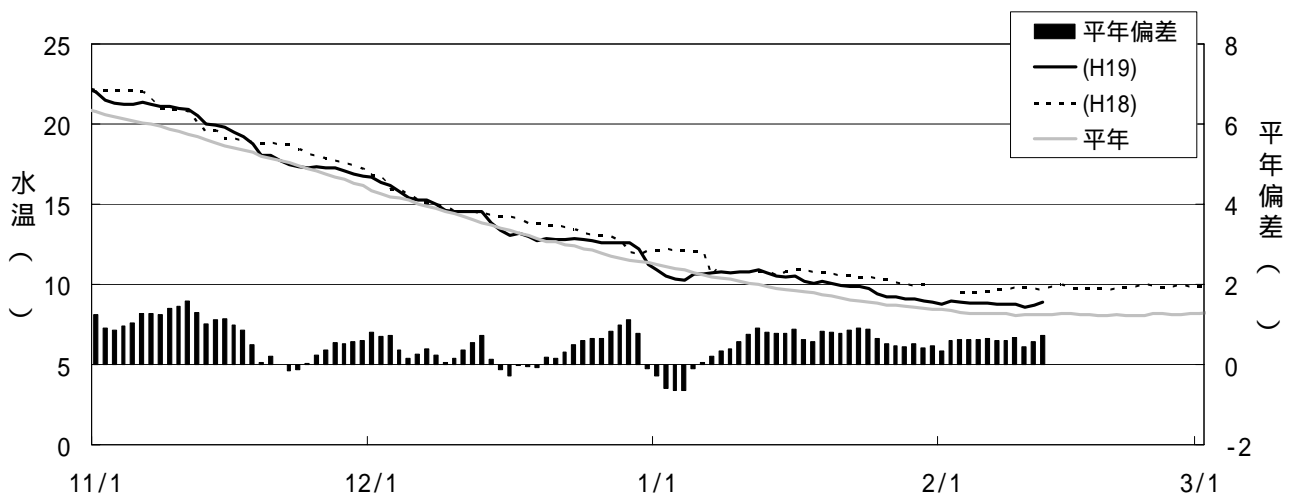


図1 水温の推移(屋島湾水深1m)

(2) 季節風（図 2）

季節風（特に西風成分）の強弱は，備讃瀬戸から播磨灘に運ばれるイカナゴ稚仔魚の量を左右し，風の強い方が分散が良く，生残が良くなる傾向がある。今年度 12 月の平均風速は上，中，下旬ともに平年をやや上回った。1 月に入ると平年を下回り，特に 1 月中旬は平年値より 0.9m/s 弱かった。季節風について 12 月は平年並み，1 月以降は平年に比べ弱かった。

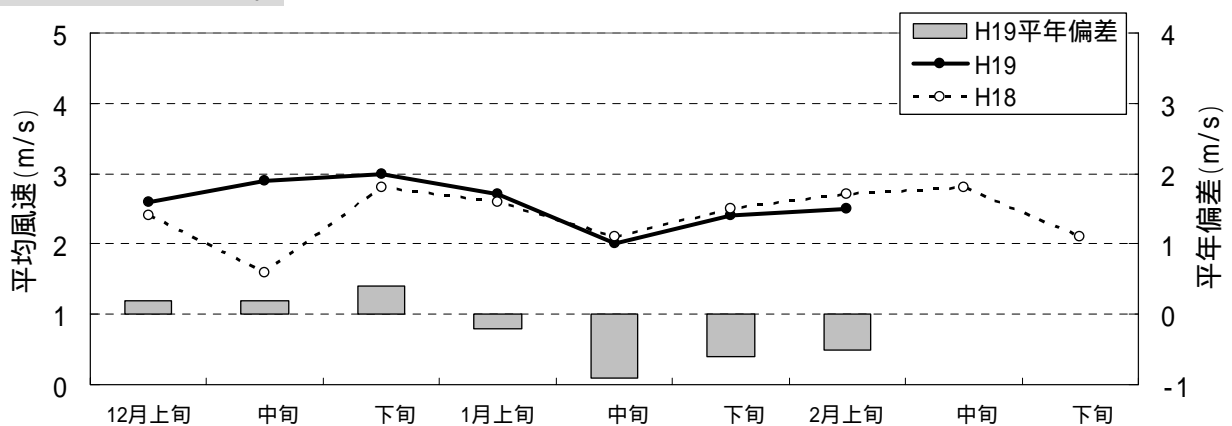


図2 平均風速の推移(高松地方気象台)

2 親魚調査

(1) 産卵期(図3)

本場調査船を使用し、空釣りこぎ漁具を3ノット3分間曳く方法で高松地区(2カ所)と庵治地区(3カ所)で2回ずつ親魚を採集した。採集したイカナゴ親魚の生殖腺熟度指数(GI(%)=生殖腺重量÷体重×100)の推移を図3に示した。雄は12月12日から25日の間に大きく低下した。雌については1才魚は12日から25日の間で低下がみられたが、0才魚については庵治地区では12日から25日の間で上昇したが、25日の値は12日の高松地区、庵治地区の1才魚の値よりは低かった。高松地区では25日のサンプルが得られなかった。

水温の推移を考慮すると、主な産卵は0才魚が12月下旬、1才魚以上が12月中旬に行われたと考えられる。

* 年齢の起算日は1月1日

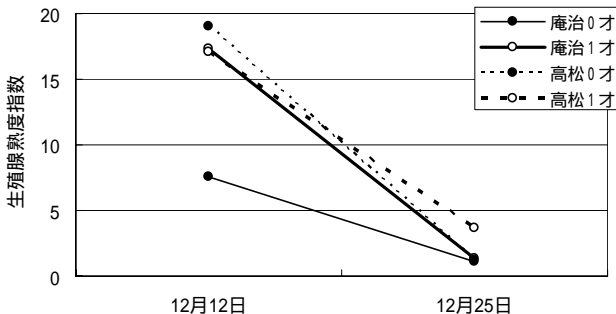


図3-2 生殖腺熟度指数の推移(雄)

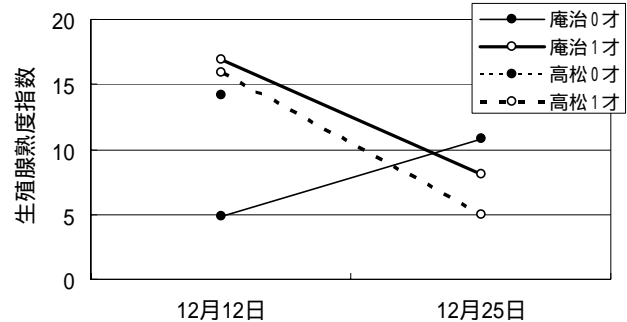


図3-1 生殖腺熟度指数の推移(雌)

(2)産卵親魚の組成(図4)

全長測定の結果を図4に示した。平均全長は高松地区0才魚88mm, 1才魚108mm, 2才魚134mm, 庵治地区0才魚81mm, 1才魚111mm, 2才魚137mmだった。年齢別組成を見ると、0才魚が129尾(46%), 1才魚142尾(51%), 2才魚7尾(3%)だった。庵治地区と高松地区を比較すると、庵治地区の方が0才魚の割合が高かった。

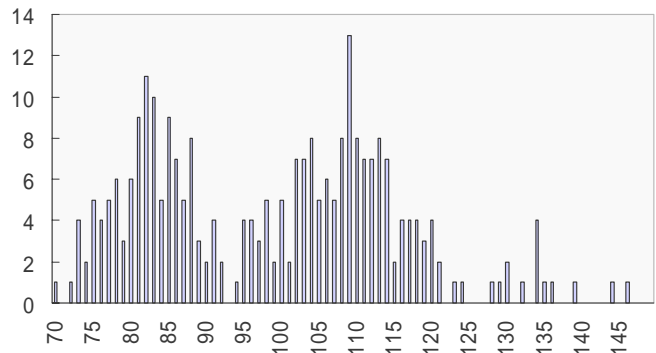


図4 イカナゴ親魚の全長組成

(3)産卵量

高松地区では1月19日から、庵治地区2月7日から実施されている込網におけるイカナゴ親魚の漁獲状況や12月の5地点での親魚調査の採集尾数から見ると親魚数は少なく、産卵量も少ないと考えられる。

3 稚仔魚の出現状況(図5, 図6, 図7)

丸特Bネット(口径45cm)の鉛直曳きによるイカナゴ稚仔採集調査を、備讃瀬戸および播磨灘の23の調査地点で1月前半(8日, 9日), 1月後半(22日)および2月前半(1日, 4日)の3回実施した。調査地点毎の稚仔魚の採集尾数を図5, 採集尾数の経年推移を図6, 全長組成を図7に示した。

なお、備讃瀬戸および播磨灘の各々1調査地点は過去の蓄積データが少ないため、稚仔数の評価については、残り21調査地点(備讃瀬戸14点, 播磨灘7点)を対象に行った。

(1)1月前半調査

備讃瀬戸での稚仔魚の採集数は34尾で、昨年(113尾), 過去10年平均(平成10~19年の10年間の平均81尾)より少なかった。採集された稚仔魚の平均全長は5.2mmであった(昨年4.1mm)。

播磨灘での稚仔魚の採集数は26尾で、昨年(16尾)および過去10年平均(17尾)より多かった。採集された稚仔魚の平均全長は6.2mmであった(昨年4.4mm)。

稚仔魚は主に備讃瀬戸東部海域および播磨灘海域で採集された。

(2)1月後半調査

備讃瀬戸での稚仔魚の採集数は9尾で、昨年(407尾)およびの過去10年平均(105尾)より大幅に少なかった。採集された稚仔魚の平均全長は6.5mmであった(昨年5.0mm)。

播磨灘での稚仔魚の採集数は13尾で、昨年(20尾)および過去10年平均(50尾)より少なかった。採集された稚仔魚の平均全長は7.5mmであった(昨年5.4mm)。

稚仔魚は主に備讃瀬戸東部海域で採集された。

(3)2月前半調査

備讃瀬戸で稚仔魚は採集されなかった。(昨年は16尾および過去10年平均は14尾であった。)

播磨灘での稚仔魚の採集数は5尾で、昨年(26尾)および過去10年平均(20尾)より少なかった。採集された稚仔魚の平均全長は9.6mmであった(昨年8.4mm)。

稚仔魚は播磨灘海域のみで採集された。

3回の調査の稚仔魚の採集数の合計は87尾(備讃瀬戸43尾,播磨灘44尾)で備讃瀬戸と播磨灘での採集数がほぼ同数であった。昨年598尾(備讃瀬戸536尾,播磨灘62尾),過去10年平均286尾(備讃瀬戸200尾,播磨灘86尾)と比較すると備讃瀬戸は大幅に少なく,播磨灘では少なかった。

稚仔の全長組成と採集された海域を昨年と比較すると,昨年よりも全体にサイズが大きく,播磨灘での採集割合が高かったことから今期の稚仔魚の分散は昨年より良かったことが推定される。

4 2月上旬までのイカナゴ(親魚)の漁獲状況

高松 1月19日から込網漁を開始した。2月8日までの漁獲量は約15トン(延べ50隻),1日1隻あたりの漁獲量は0.3トンと不漁である。

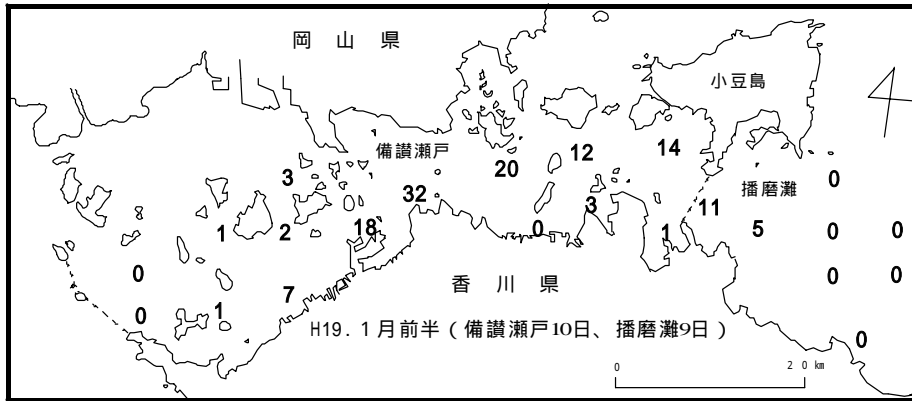
庵治 2月7日から込網漁を開始した。2月12日までの漁獲量は1.6トン(延べ11隻),1日1隻あたりの漁獲量は0.1トンと不漁である。

5 シンコ漁について

今期の稚仔魚の採集数は,昨年,平年に比べて少なく,親魚の漁獲も少ないことから産卵量は少ないものと思われる。稚仔の分散は平均風速が平年より弱かったことから平年より悪いが,播磨灘と備讃瀬戸の採集数の割合から昨年よりは良かったと思われる。

以上のことから,今期のシンコ漁については,成長に関しては比較的良好と思われるが,平年を下回り昨年同様に低調な漁模様で推移すると予想される。

平成 19 年



平成 20 年

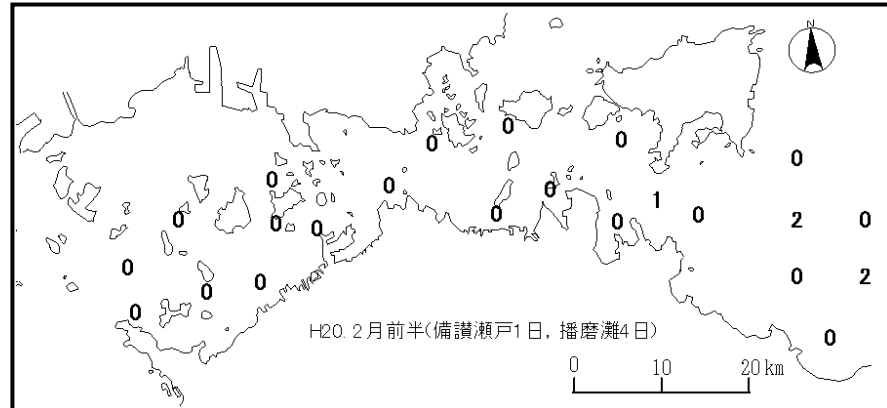
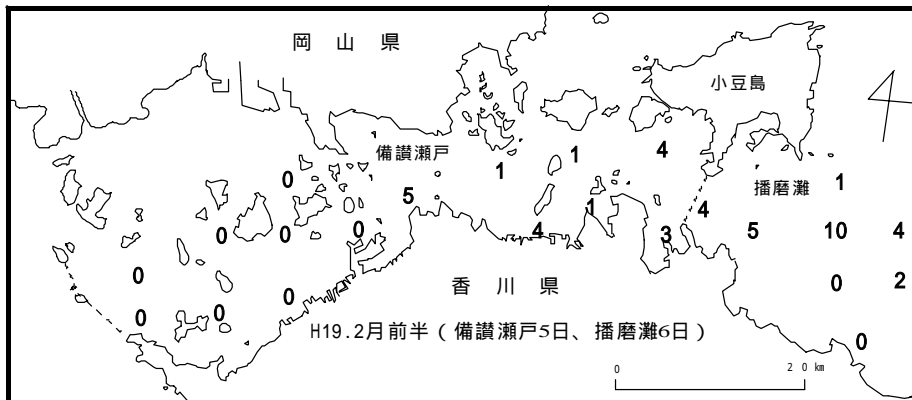
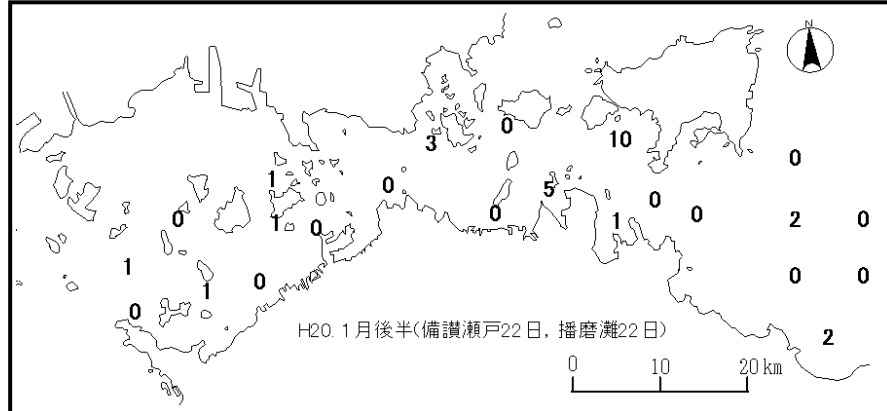
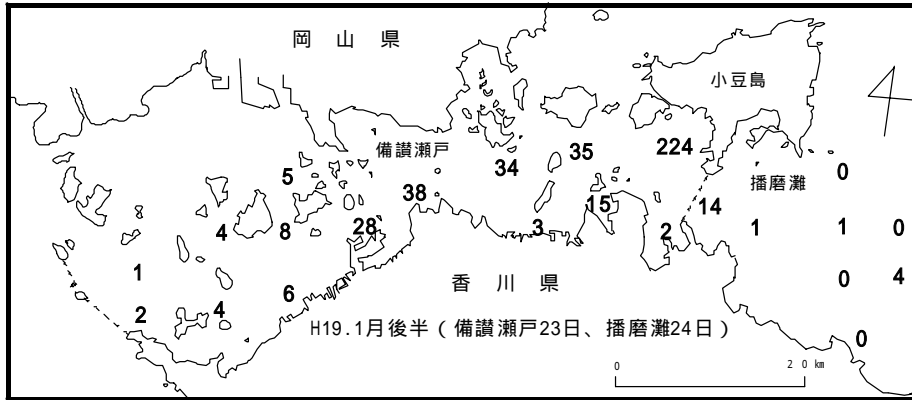
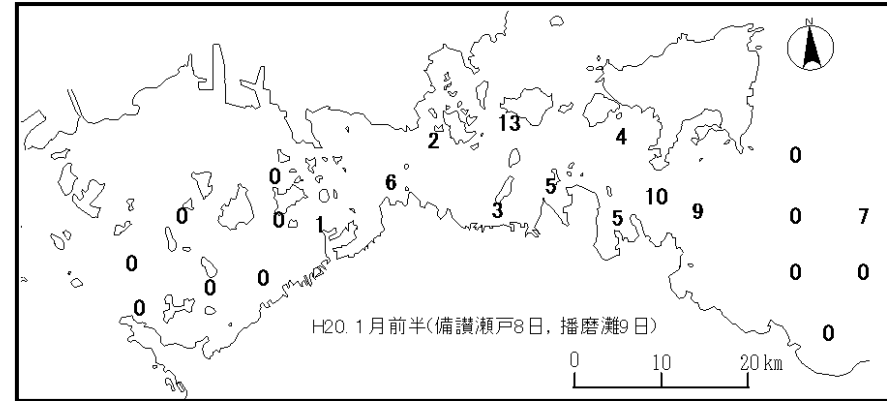
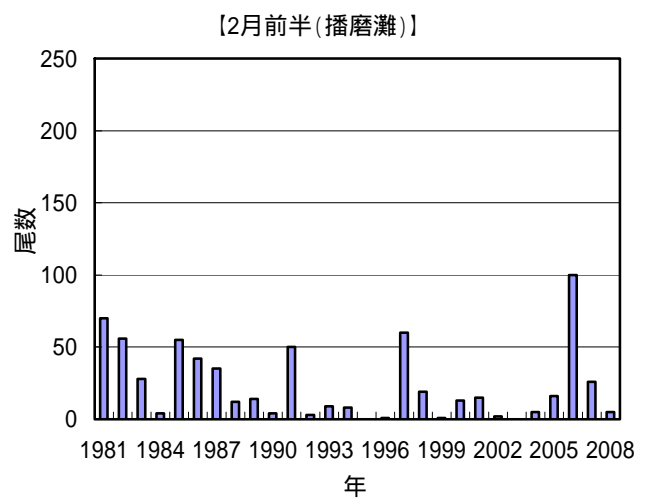
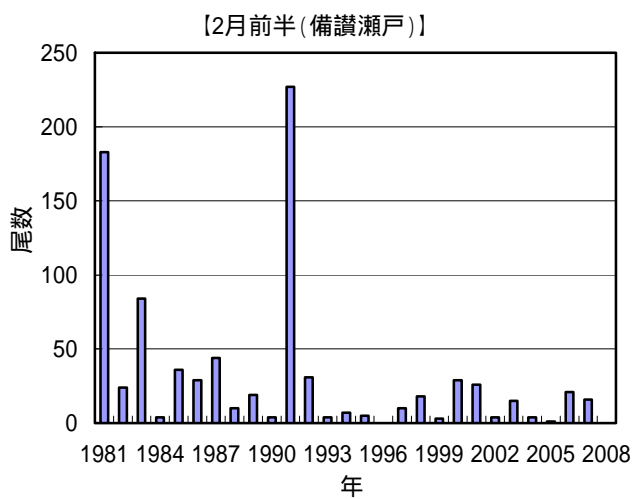
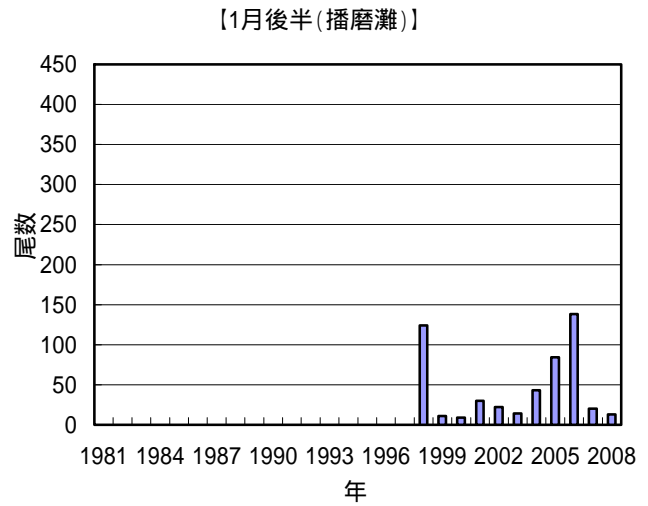
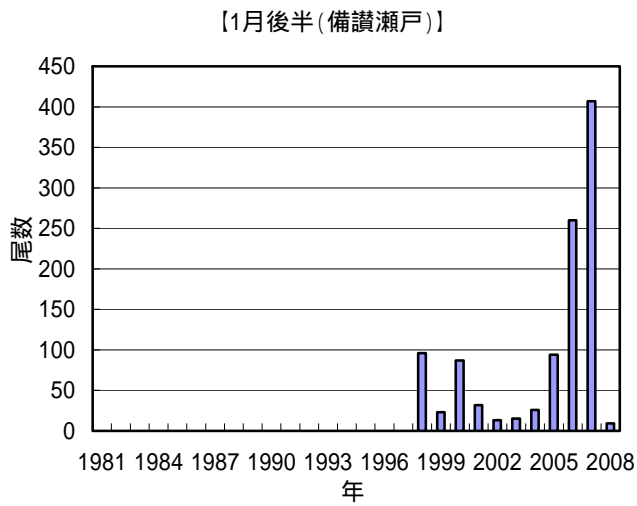
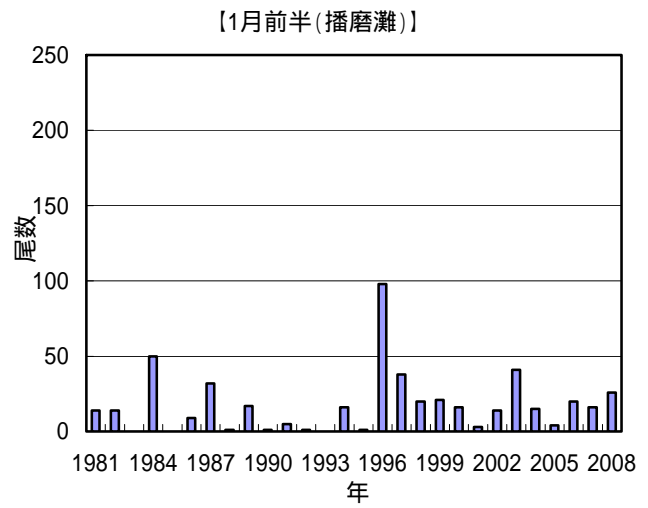
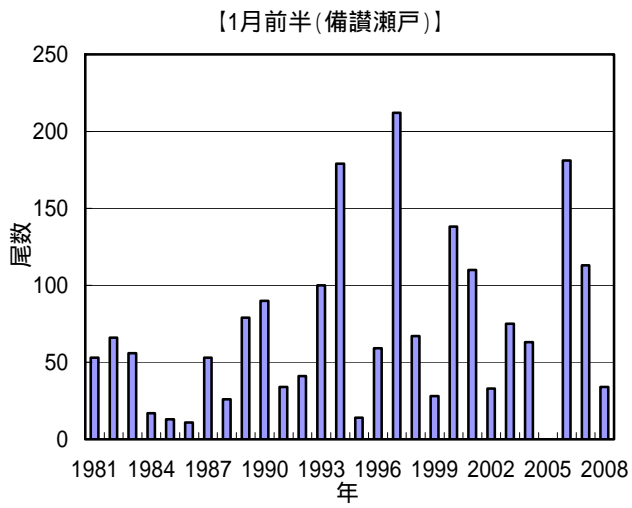


図5 イカナゴ稚仔魚の採集尾数 (丸特Bネット一曳網あたり)



備讃瀬戸: 調査点14点の合計
播磨灘: 調査点7点の合計

図6 イカナゴ稚仔魚採集尾数の推移(丸特Bネット一曳網あたり)

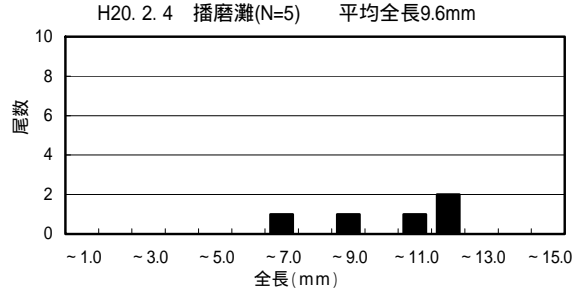
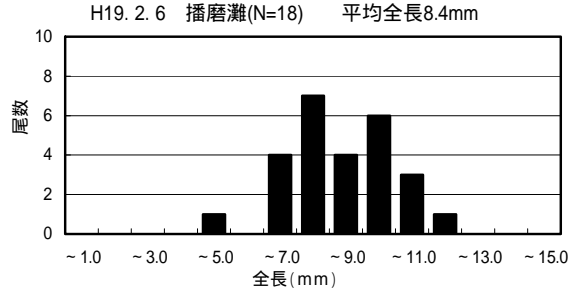
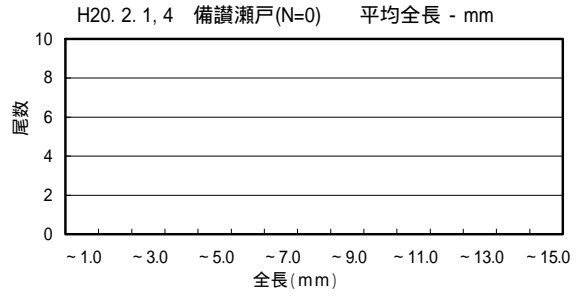
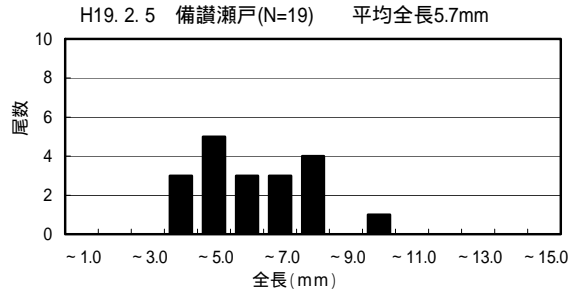
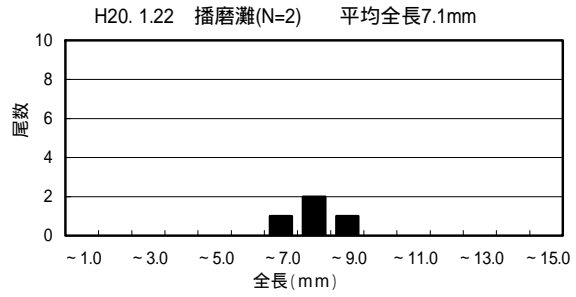
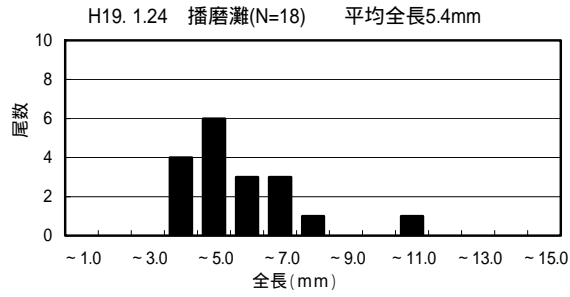
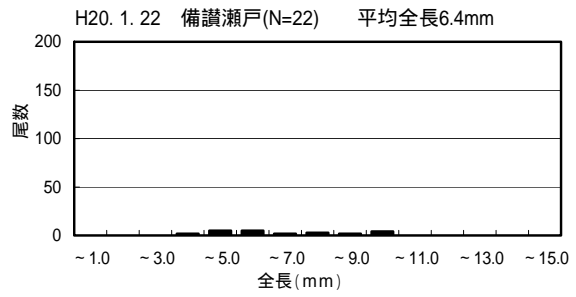
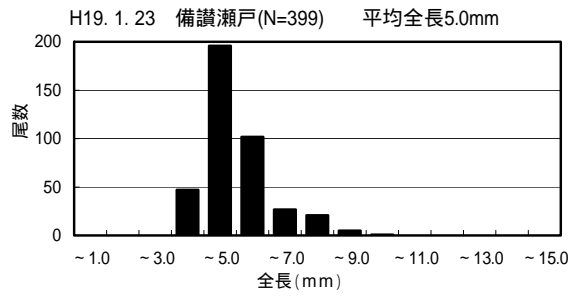
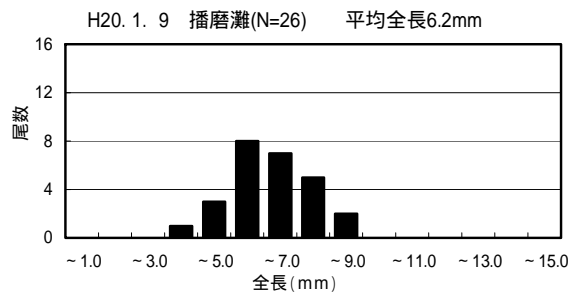
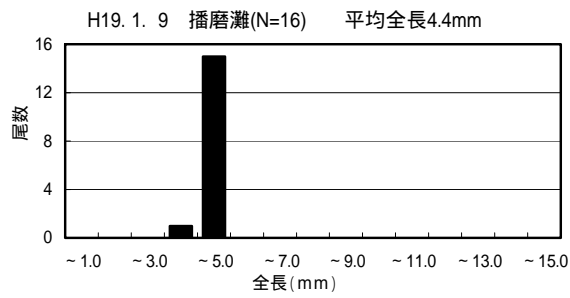
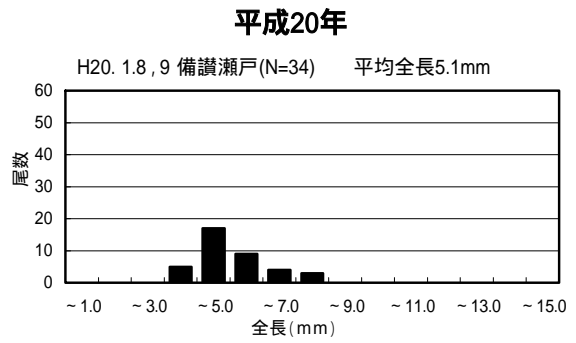
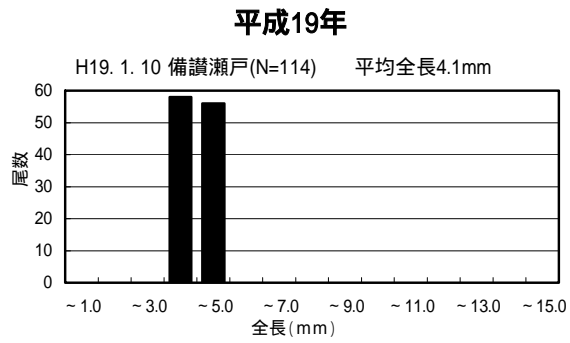


図 7 イカナゴ稚仔魚の全長組成